

## 今思うこと

神城醫院  
看護主任 小池 晶子



大阪で生まれ育った私が小谷村で暮らすようになり3年目となりました。大阪と環境が異なるこの土地での生活は、楽しくもあり厳しいものでもありました。特に冬。遊びに来ていた時とは違い、雪景色を見て喜んでいたらのもつかの間で、雪が降るたび、「また降るの・・・もう、いいわぁ。」と思うようになりました。しかし、冬が終わり、春になって庭の桜が咲き、山が土色から緑に変わっていく景色を見て大阪では感じられない四季を実感できる事がとても嬉しく思えるのも正直な気持ちです。

現在、神城醫院で看護師として働かせて頂いていますが、多くのご利用者やご家族と関わりを持ち、身近に感じる様々な問題を共に考えていくことができたいと思っています。高齢化が進む中、大阪では、在宅生活をされている高齢者よりはるかに入院生活や施設に入所されている方が多いと思われましたが、こちらでは在宅生活をされている高齢者の割合が多いと感じました。驚いたのが、車でどんどん山の上へ登り、家がほんとはあるのかと思うような場所に、家があり、そこで一人暮らしをしているお婆さんがいたり、80歳を超えたお爺さん、お婆さんが二人で生活し、畑仕事までしているなど大阪では見かけることもなかった光景でした。その方達と話させてもらうことで、自分の未熟さを感じた、自分を成長させるきっかけ作りができるような気がします。

今、自分にできること、今だからできることは何かを常に考え、これからも頑張っていきたいと思っています。時間は多くあるように思えますが、時間は止まってはくれないし、巻き戻してもくれません。1秒1秒確実に進んでいきます。その時間を大切に過ごしていきたいです。

## ～投書箱から～

### 【ご意見】

こちらの施設への入所がなかなか難しいと聞き少々驚きました。施設でお見かけする方の中にはまだまだお元気でご自分で歩いていらっしゃる方や、歩行は不自由なものの頭はしっかりとされている方々がいらっしゃいます。

入所の選考の基準はどのようなものなのでしょうか？



### 【回答】

当施設への入所に関するご質問にお答えいたします。

1. 入所の対象となる方は、介護保険法で要介護度1から5と認定された方です。
2. 入所検討会にて入所と継続の可否を決定しています。入所検討会は、施設長、看護長、看護部長、介護部長、支援相談員、リハビリ職員、各部署のリーダー等で構成されております。入所の可否は、対象者の身体状況、地域・家族・住環境状況、緊急度等、総合的な視点で検討し、決定しております。したがって、必ずしも身体機能の低い方や要介護度の高い方が優先される訳でもなく、申し込み順にて入所できるとも限りません。
3. 介護老人保健施設は在宅介護を支援するという目的をもっており、白馬メディアでも在宅介護を支えるかたちで入所や継続の検討をしております。しかしながら、様々な状況から長期入所となっておられる方がいるのも事実です。その方々には、個々に今後の方向性について話し合いをし、働きかけを行っております。これらは、短時間で解決できることではなく時間を要します。したがって、長い目で見ていただきますようお願い申し上げます。

## ～編集後記～

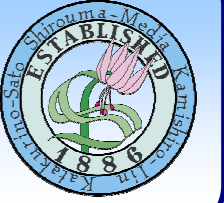
家の近くで、羽化したばかりのオニヤンマを見つけ、大雨にもかかわらず、生きていてくれたことに大いに感動!! 父母の子供時代は登校時、胸に5・6匹も下げて自慢合ったそうです。私の小学生時代は2・3匹だったかな? 今、子供たちは何匹見つけられるだろうか? と、アスファルトとU字溝に囲まれた通学路を思い浮かべながらふと考えてしまいました。

鎌倉



しろうま

# 白馬メディア通信



発行日：平成18年8月10日 第5号



オリンピック道路より望む「白馬三山」

## 天神原夜祭り

例年よりも梅雨明けが10日遅かった影響で、天神原夜祭りは開始直前まで外にするか、屋内にするか悩まされました。それでもお年寄りが心をこめて作ってくれた32個のてるてる坊主が天の神様に願いを届けてくれたのでしょうか、奇跡的に雨がやみ、小谷太鼓の響きとともに納涼祭を幕開けすることが出来ました。



五平もち、おでん、焼とり、綿あめなどの屋台が並ぶ広場で、歌や踊りを楽しみました。100人余りのご家族、地域の皆様に支えられ、ともにひと時を過ごせたことに感謝申し上げます。

## 編集・発行

かみしろ  
神城醫院（内科・心療内科・皮膚科・精神科）  
‘S’ウェルネスクラブ神城（厚生労働省認定疾病予防運動療法施設）  
しろうま  
白馬メディア（介護老人保健施設）  
かたくりの郷（認知症対応型共同生活介護）  
北アルプス訪問看護ステーション  
北アルプス訪問介護ステーション  
しろうま（居宅介護支援事業所）

〒399-9211  
長野県北安曇郡白馬村大字神城 22844  
TEL 0261-75-7100（代）  
FAX 0261-75-7120

## 回想記

事務長 <sup>うけち たけお</sup> 請地 竹雄



『光陰矢のごとし』といいますが、月日の経つのは早いもので白馬に着任し5年が過ぎました・・・。  
 思えば、例年にない大雪の中「3月31日までの建物引き渡しはとても無理である 5月まで延長できないか」、施工業者との遣り取りは毎日がこの様な事でした。屋上の除雪が終わり「明日は防水工事です」、翌朝になると前夜降った雪が山のように積もっている。まさにイタチゴッコとはこの事でしょう。  
 一方、4月1日付採用の職員60数名は、3月3日の最終新人研修を済ませ4月開設に向けての準備を黙々と行っておりました。隣接の農業体験実習館をお借りし、鉛筆1本からメモ用紙1枚にいたるまで全てがゼロからの出発でした。介護職員の大半は新卒者であり、他の職員も老人保健施設経験者は皆無状態、もちろん施設長も私も病院経験はありますが初めての経験です。各担当別に分かれ四苦八苦しながら、「各担当者の責任に於いて4月開設時には全て整っていないといけない」が合い言葉に、毎日がその繰り返しでした。

4月1日、準備に追われた農業体験実習館にて入職式が行われました。辞令を受け取る職員は、2週間後に控えた入所者の受け入れに、自信と不安が入り乱れているように感じられる反面、未知の世界に挑戦する意欲が強く感じられました。

かくして、平成13年4月に有床診療所を筆頭に介護老人保健施設、認知症対応型グループホーム、訪問看護・介護ステーション、フィットネスクラブ等8事業が立ち上がりました。平成14年に配食サービス、居宅介護支援事業所が加わり10事業となり、平成15年に診療所の10ベッドを医療療養型と介護療養型に転換、訪問リハビリを加え14事業になりました。そしてこの4月介護予防事業が参入し、24の事業を営むに至り、職員数もこの5年間で100数名となりました。

開設当初から職種、資格、経験、年齢等に左右されることがなく、小さな事でも建設的な意見であれば否定せず、何事も出来ないのではなくどうすれば出来るのかを検討し実現していく、全員参画型の経営を目指しました。したがって、一部の責任者を除き全員が一つのラインに列んでスタート、試行錯誤している内に、リーダーと称される職員が各部署で推薦され、その人を中心に本格的に活動を始めました。

施設長も私も口出しは極力控え「皆さんのやりたいようにやってみてください」の一言。これが効を奏したのか職員は「私達のやりたいようにやらせてくれる・・・、嬉しい!!」、こうした職員の団結した力によって今日の白馬メディア等は成り立っているのです。ある日、施設長の方針である「私達は入所者と生活を共にする」という言葉に、職員が「生活を共にしているのに、私達が制服を着ているのはおかしい」という意見が出され、醫院の看護師と厨房の職員を除き、ユニホームを廃止し私服で勤務することとなりました。

私は以前勤務していた病院の理事長が云われた【事務長心得】が今も脳裏に残っており、少なからずそれに操られているような気がします。それは、〔1、人の上に立つ者は常に孤独であれ 2、いい人であってはいけない憎まれ役を演じる 3、経営の善し悪しは事務長の手腕による〕です。しかし、よく考えてみますと、やはり職員の力があればこそ私がこうした立場でいられ、今の職席が在るのだと感慨させられます。

開設から何人も職員が入れ替わっております。挫折し退職する者、泣きながらも歯を食いしばり我慢する者、黙々と頑張る者等々、1年経てば何とかなる、いや、もう1年、もう少しと思いつつ、何とか一人前の施設となるのに3年は費やされた気がします。まさに人生の泣き笑いを見てきたように思います。

まだまだ至らぬところは沢山あります、しかし常にその至らぬところを改善しようと努力しています、これこそが「質の向上」ではないでしょうか。

6月22日、永年勤続5年の職員30名が表彰されました。苦勞しながら立ち上げてきた職員に感謝すると共に、あえて誇りに思いたい。全職員に今後の活躍を期待します。

## お歯無し



通所リハビリ 『山桜』  
 歯科衛生士 <sup>ゆあき えみこ</sup> 湯浅 笑子



高齢者の口の中を拝見させていただくと、合わない入れ歯を使っていたり、歯の根っこしか残っていない方など、身体は元気でも口の中のことには無関心の方が多く見受けられます。

ブラッシングができていても、口の中の清潔が保たれているとは限りません。「朝・昼・晩の食後に食器を洗うのと同じように入れ歯を洗い、口の中も綺麗にしましょう。」とすすめています、それに応じてくださる方ばかりではありません。

A様は総入れ歯です。若いときから入れ歯をしっかりと手入れしており、食後のブラッシングも怠りませんでした。一時、体調を崩されペースト食になったこともありましたが徐々に回復して、現在は入れ歯を使って普通食を召し上がっています。しっかりと噛んで、飲み込んでいるおかげか、体調も良く、穏やかに過ごされています。一方、B様は、ご自分の歯がわずかに残ってはいるのですが、若い頃からあまり手入れをせず、今も口すらあけてくれません。体調もこれといって悪くないのですが、昔は何ともなかった歯がぼろぼろと欠け落ちてしまい、しっかりと噛む事も出来ず食べづらそうです。前歯でリスのように噛んでおられ、唇を硬く閉じて口の中を隠すようなしぐさもみられます。だんだんと意欲も落ち、生活レベルも下がり、あまり表情もよくありません。

口腔機能向上を促す目的は「高齢になっても美味しく、楽しく、安全な食生活を営むことで、一生その人らしい生活が送れること」です。施設に入所されているご利用者を対象にしたアンケート調査では、一番の楽しみは、行事よりも、家族に会うことよりも「食べること」だという結果がでているそうです。おいしく食べるためには、丈夫な歯を維持することが大切です。そのためには口腔ケアがとても重要なことなのです。



## 俳句三首

合歡咲くや 山の出湯のクラス会

紫蘇の香を 婆の両手に 匂わせて

塩の道 百体観音 青葉萌ゆ

九十六歳 女性

## おやき作り

